

[052] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10220>

出版情報：語文研究. 52/53, 1982-06-10. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

本年四月一日を以て今井源衛先生は九州大学を定年御退官になりました。先生はその後相変らずの瘦身に倍日の御元氣さで、御筆研は益々御すゝみの如くに御見受け致しております。御定年というのが、まるで実感を伴わぬ想いで御座います。

そこで、この今井先生退官記念号は、先生の御退官を惜しむというよりは、先生の今後益々の御研究の進展をことほぐ氣持を籠めて先生に呈上出来るよう、特に先生の御新稿を頂戴して、巻頭を飾らせて戴きました。また本特集号と並行して「今井源衛教授退官記念文学論叢」の刊行企画が進んでおり、受講生中特に中古中世専攻の諸氏は、そちらへの御寄稿を御願ひした事もあって、本特集号は近世近代、及び国語学専攻の諸氏による御執筆を纏めさせて戴くことになりました。

先生の御学風は幸い本特集にも示されます通り、ジャンルを超えて諸受講生により着実に継承され、進展致すこと疑いを容れる余地は御座いせんが、また如何なる一事をも疎そかにせざる、先生の御氣質もまた、永く研究室の基盤として受けつがれること言う迄もありません。

御多用中の所を、揃って力作雄篇を御寄せ下さった執筆者諸兄姉に対しては、深甚の謝意を表明するもので御座います。

尚今井教授退官記念行事としては、二月十三日午後二時より、本学法文系大講義室において、最終講義（題目「王朝女流文学の思念」）をお願いし、引続き医学部同窓会館においてパーティーを催しました。何れも立錫の余地も無い盛会で、研究室員一同大いに

面目を施しました事で御座います。

また本特集号と同時に前記「文学論叢」も刊行の運びとなり、国文学会の席上、共に先生に呈上出来る様予定致しております。これもひとえに会員各位の御尽力の賜と厚く御礼申し上げます。

（中野記）

△規定▽

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るがそれ以外の方に投稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三〇枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年一回（春・秋）を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会費三千元（各号二部配布）、通常会員千五百円（各号一部配布）とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。